

天竜川流域における北限地域のカシ林

伊 藤 文 男

F. Ito : Oak forests in their northern limits along the Tenryu River

伊那谷の常緑広葉樹林は天竜川流域に点在している。これらの地域は年平均気温 12°C 以上の地域といわれている。飯田市弁天以北の照葉樹のカシ林の北限地域を調査を行なった。下伊那郡南部の天竜村には、アラカシ、シラカシ、ウラジロガシ、アカガシ、ツクバネガシの自然植生が見られるが、弁天以北の地では、アラカシとシラカシの植生であるが、古来の自然植生地は農耕地や住宅地となり、また、アカマツ、コナラ、タケなどの自然林や植林地の二次林となって多くは失われている。カシの植生のみられるのは、天竜川及びその支流の河岸の崖や、段丘崖に、また社寺林にみられている程度である。現存の植生からみて天竜川沿いの飯田盆地の海拔 $500\sim 550\text{ m}$ 以下の地域はカシ林などの常緑広葉樹林に覆われていたと推測されている。飯田市弁天以北の市町村について自然林の北限と思われる上伊那郡南部飯島町、中川村の区間について 205 地点の調査から、現況の一部を報告したいと思う。

カシの分布のみられるのは、段丘崖、河岸、社寺林地が主であって、下伊那地方はモウソウチクやマダケの竹林がこのような地域に多く、カシの自生が竹林内によくみられた。

〈各市町村の状況について〉

飯田市街地のある長姫城跡の段丘崖海拔 450 m にもアラカシ林がみられ構成種のアオキ、ヤブツバキ、チャノキ、がみられた。滝の沢にある白山社の社寺林（海拔 580 m ）はスギ、ヒノキ、マダケなどの林であるが植栽のシラカシの巨木があり大きいのは目通り幹囲 3.15 m もあって林床に芽生えの群生がみられる。座光寺の麻績神社の境内にはシラカシ、アラカシの高木があり大きいのは幹囲 2.25 m がみられた。その近くの民家の竹林内にはアラカシ、シラカシ、ヤブツバキ、チャ、アオキ、ナンテン、ヤブコウジ、シュロなどの植生がみられた。

高森町、松川町（大島、上片桐）の観察地点は64 地点で海拔 $450\sim 550\text{ m}$ の範囲にアラカシ、シラカシが多くみられた。また、ヤブコウジ、チャ、ヒイラギ、シュロなどもみられた。高森町の萩山神社境内から裏山・海拔 $410\sim 530\text{ m}$ のアカマツ林、ヒノ

キ林内にカシの幼木の群生をみる。神社の境内にはヤブコウジの広い群落があり、ヤブツバキ、チャの群落もみられた。

竜東地区（天竜川右岸地区）の喬木村、豊丘村、松川町生田の観察地の68地点からみて、アラカシの植生が多く、シラカシの自生は稀である。民家の庭木にはアラカシの植栽が多い。この地区も構成種のヤブツバキ、アオキ、チャの分布がみられ、稀にナンテン、ヒイラギの自生がみられた。生田の部奈の諏訪神社の境内には植栽されているアラカシの大木があり樹高 11 m で、幹囲は目通り 3.10 m で大きい。

上伊那郡の中川村（竜東側は旧南向村、竜西側は旧片桐村）海拔 $500\sim 550\text{ m}$ にはアラカシが多いがシラカシもみられる。共に住宅地の裏山にあたる段丘崖の下部に多くの林がみられる。ヤブツバキ、チャノキ、アオキなどの自生も多く繁茂している温暖な地である。南向の北島正邦氏宅の庭木のシラカシは巨木で風格がある。目通り幹囲 5.21 m 、高さ目測 20 m 、枝張り東西 17 m 、南北 17.5 m で樹勢もよく県下最大のものと思われる。

上伊那郡飯島町、町内の竜東側の日曽利の地籍にはシラカシの幼木が林内にみられる。当地の古寺の跡地に数本のアラカシの高木が残存していたが、附近にはアラカシの自生が見られなかった。また竜西側の本郷で、海拔 600 m の社寺林にシラカシとアラカシが植栽されて大木になっていたが、その隣接地のヒノキ林内にはシラカシの幼木がみられたがアラカシはみられなかったことからシラカシの方が寒さに耐性が大きいと思われた。飯島町や駒ヶ根市で民家でカシを庭木として植栽してある家がみられた。

現存の植生からみて、古来の自然植生は中川村が北限の地域であると推定している。

（49頁より続く）

（草間原稿より）

池田町広津のエドヒガン群落、北の方にあるオクチョウジザクラ群落、白馬が中心になるオオヤマザクラ群落、標高の高いところにあるタカネザクラの群落の分布わけは、わたしにとって、非常に興味深い。